【授業科目】薬理学　　Pharmacology

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
星野 真理	２年次 前期	必　修	1	１５	講義		巻末 掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要/薬理学のアウトラインを理解してもらうために、総論として、薬力学、薬物の相互作用・薬物と食品の相互作用、副作用・中毒などを学び、各論として、循環器系の中で不整脈・狭心症・心不全など心疾患・高血圧・末梢循環器障害などの疾患、中枢神経系の脳・神経の疾患・精神疾患、血栓症・出血傾向・白血病など血液の疾患、気管支喘息・気道狭窄など呼吸器系疾患などに特化してそれらに対しての治療薬についての詳細な作用機序、副作用などについて学ぶ。 課題に対するフィードバック方法／質問内容などについては全体にも適宜講義中にフィードバックする。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①基本的な概念である薬の標的分子、作用薬の分類、濃度-反応の関係、吸収・代謝・排泄について理解できる。 ②代表的な薬の効果や副作用をよく理解できる。 ③習ったことを理解し、説明ができる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	基礎生物学、生化学、解剖組織学、生理学、血液学の講義内容を復習しておくこと。 事後：毎回学習したポイントについて、よく復習をする（1時間程度）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　総論 第 2 回　末梢神経系 第 3 回　中枢神経系 第 4 回　循環系 第 5 回　呼吸系 第 6 回　血液系 第 7 回　消化系 第 8 回　その他 全て 星野
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 学期末試験 100%
教科書	『はじめの一歩の薬理学』 羊土社　　参考書等　なし
学生への メッセージ	薬理学は他の学科や分野との関連があるので、生理学の知識を基に薬物の作用機序や副作用を理解しましょう。